

「時代劇は永遠に」

(第三十四回)

最近、時代劇ブームと言われている。その中でも大御所は長年続いている「水戸黄門」。視聴率が高く、何となく安心して見てしまふ。宮本武蔵を主人公とする漫画

「バカボン」が人気を博し、大河ドラマも始まった。ケーブルテレビでは時代劇専門チャンネルの申し込みが増え、時代劇の主題歌集のCDまで発売された。これらのファンが、年輩者はもちろん、若年層にも広がっているという。

先日、話題作の映画

「たそがれ清兵衛」を観た。山田洋次監督が構想に十年以上を費やして完成させた渾身の一作。下級藩士の清兵衛は、夕方の黄昏時に仕事が終わると直ちに家路につく。老母や二人の娘の世話など、家事のすべてをしなければならぬから

である。その窮状を、宮沢りえさん演じる幼なじみの女性が救う。物語の根底に流れているのは、人を思う優しい心。現代の豊かすぎる生活の中で、私たちが見失っているものがあるようだ。

なぜ、いま、時代劇なのだろうか。通常のドラマなら数年たてばその内容が古くなる。しかし、

時代劇の場合、いつまでたってもその魅力が色あせない。感動も新鮮さも変わらない。昔なら義理や人情、今なら勇氣や誇り、を味わい堪能させてくれる。

新しい情報をお届けさせて頂きたい。一押しは、浅田次郎氏の

ベストセラーでもある映画「壬生義士伝」。また、一

般庶民を描いた時代劇の舞台、山本周五郎原作の「さぶ」もなかなか素晴らしい。いつまでも新しい時代劇に、いちど触れてみてはいかがですか？

(医学博士・内科医師)

健康のススメ
板東 浩